文部科学省　平成28年度　総合的な教師力向上のための調査研究事業

民間教育事業者の力を活用した教員の資質能力向上事業

実施報告書

国立大学法人 宮城教育大学

文部科学省　平成 28 年度　総合的な教師力向上のための調査研究事業

民間教育事業者の力を活用した教員の資質能力向上事業

実施報告書

調査研究主題

民間，教育委員会，大学が連携し，内容学と方法論の 2 軸でとらえる包括的な教員の資質・能力向上プログラムの開発・体系化

調査研究の目的

教員研修を，内容学（教科教育，生徒指導，学校経営等）と教育方法・改善論（いわゆるアクティブ・ラーニング，教育の情報化・教科での ICT 活用）の 2 つの軸で捉えなおし，従来の研修の枠組みを再構成・拡張することで実践性の高い包括的な研修プログラムを実施し，今後必要とされる教員の資質・能力の向上に寄与することを目的とする。

実施機関名　国立大学法人 宮城教育大学

連　携　先　宮城県教育委員会

株式会社内田洋行

株式会社ベネッセコーポレーション

課題認識

背景

- 学習指導要領改訂に向けた文科省教育課程企画特別部会における論点整理で示された視点を踏まえた教員研修の必要性
  - ➢ 研修自体をいわゆるアクティブ・ラーニングの視点で組みなおす
  - ➢ 指導要領改訂に向けた教員の意識改革の急務
  - ➢ 教員の ICT 指導力向上の加速
- 教育委員会・教育センター研修の充実
- 宮城県教育委員会による，教科指導での ICT 活用方針「MIYAGI Style」が策定
- 大学における先端研究及び教職大学院実務家教員の知見の普及・還元
- 民間教育事業者の持つノウハウ及び研修パッケージのバリエーション
- 大学と教育委員会との密接な関係の構築（中教審答申　H27.12.21）

課題

- 企画特別部会論点整理を踏まえた研修の急務
  → 先行的な教員の資質・能力向上研修の試行
- 知識伝達型の研修
  → 研修自体の反転学習化で，研修当日にアクティブ・ラーニング型で実施
- 研修内容だけでなく研修過程に含まれる汎用的スキルも含めた，研修の評価・アセスメントの必要性
- 宮城県における教科教育での ICT 活用推進方針「MIAYGI Style」の普及・定着
- 教員研修における教職大学院実務課教員の関わりの充実
- 教員研修における大学の教科教育・専門担当教員の先端研究成果の還元の場の提供

調査研究の具体的な内容・取組

①民間教育事業者が持つ研修教材・ノウハウや評価・アセスメントの強み(※1)，②宮城県教育委員会の作成した ICT 活用方針「MIYAGI Style」や優良授業コンテンツを整理した「授業の技」ビデオ配信事業，③大学における最新研究や人的資源の活用，以上三者の特徴を生かした新規モデル研修の開発を行い，その新規モデル研修と県が提供する既存の研修を，研修内容および研修方法という 2 軸で体系化し直し，研修の位置づけを明確化して，研修を実施する。

※1：問題・課題解決型や汎用的能力育成の研修プログラムを持つ民間教育事業者と，汎用的能力の評価・アセスメントを強みとして持つ民間教育事業者とで連携する。

研修日程と成果

実施日	2016 年 11 月 9 日	実施場所	大衡小学校
研修キーワード	教員による ICT 活用，MIYAGI Style，教科指導における ICT 活用		
内容と成果	● 全国学力・学習状況調査を多面的に見て分析する ● 全国学力・学習状況調査結果から大衡小学校の特徴を理解し今後の授業や活動への活かし方を学内で共有 ジグソー法を取り入れた研修によって，データから状況を分析的に理解するということを通して，教科目標だけでなく，汎用的な能力の育成を意識した授業設計についての視点を共有できた。実施アンケートからは，児童の全般的な評価を行う研修の時期はできるだけ早くすることの重要性が示唆された。		

実施日	2016 年 12 月 26 日	実施場所	大衡小学校
研修キーワード	アクティブ・ラーニングの視点，教員による ICT 活用，MIYAGI Style，教科指導における ICT 活用		
内容と成果	● 児童に身につけてほしいスキル・伸ばしたい資質・能力と併せて 21 世紀型スキルの理解 ● ICT の特性を理解し，場面に応じた適切な ICT 活用の重要性の理解 研修当日までに，ICT 活用に関する書籍を配布し，MIYAGI Style の動画，宮城県総合教育センターの動画配信＋タブレを視聴することで，反転授業形式の研修として実施した。グループワークの記録映像からは，研修テーマについて確認し合い，目的がぶれないようにする様子，汎用的能力という抽象度の高い話の中で，具体的な授業や児童の様子をイメージしながら情報共有して進める様子を把握することができた。 また実施アンケートからは，以下の 2 点の重要性が示唆された。 1)事前に見た内容と対面研修がきちんとつながること 2)視聴する意図が伝わるビデオにしておくこと		

実施日	2016 年 11 月 24 日	実施場所	宮城教育大学
内容と成果	宮城県教育総合教育センター 小川先生と，これまでの本事業の研修内容と意義を踏まえて，教育センターの情報教育班で開催する研修について不易と流行をとらえ，研修内容と方法による 2 軸で捉え直した。その結果，研修キーワードとして，情報モラル，アクティブ・ラーニングの視点，児童・生徒による ICT 活用，教員による ICT 活用，MIYAGI Style，地域や保護者への情報発信，校内 LAN 活用，情報セキュリティの確保，校内研修を挙げることを確認できた。同様に，教育の情報化の観点（情報教育，教科指導における ICT 活用，校務の情報化）もキーワードとして挙げることで参加者の研修選択指標を充実させることになった。		

実施日	2017 年 2 月 2 日	実施場所	大衡小学校
研修キーワード	アクティブ・ラーニングの視点，教員による ICT 活用，教科指導における ICT 活用		
内容と成果	公開授業にて，研修の成果を発揮し，ワークショップ型分科会にて参加者同士での対話的で主体的な授業の振り返りを実施した。（分科会にて）		

実施日	2017 年 2 月 17 日	実施場所	多賀城高校
研修キーワード	アクティブ・ラーニングの視点，教員による ICT 活用，教科指導における ICT 活用		
内容と成果	ベネッセの思考スキル測定アセスメント「GPS-Academic」を生徒と教員対象に実施した。GPS-Academic では，主に批判的思考力，協働的思考力，創造的思考力について，選択式設問，記述式設問，アンケートによって測定し，各思考力についてのアセスメントの結果と自己評価の結果の差異についても結果レポートされる。この研修では，大衡小の得点に反映される学力を元にした授業改善の研修とは異なり，教科に依存しない汎用性の高い思考スキルという切り口で生徒の実態を把握し，授業の改善について方向性を持つ，という目的で実施した。 教員自身の実施では，自分の汎用的な思考スキルについて自己分析を行い，生徒については，結果と教員の見取りとの共通点と相違点を中心に，生徒の特性を強く意識した授業改善の方向性についてイメージを持つことを確認した。実施アンケートは，肯定的回答が多かった。実施の効果を高めるためには，全体と比較して特徴的な結果となっている生徒個人を見つけ，その生徒に対して具体的な手立てをグループで議論することが重要であると思われた。		

総合的な成果と課題

教員の多忙化が指摘される中，教員研修の必要性が高まり，結果的に研修の時間をいかにして確保するかが鍵となる。本事業として，民間教育事業者 2 社の強みを活かした総合的な教師力向上を意図した研修は，こうした時代の要請に有意義な知見を得ることができた。本事業の成果と課題を以下に要約する。

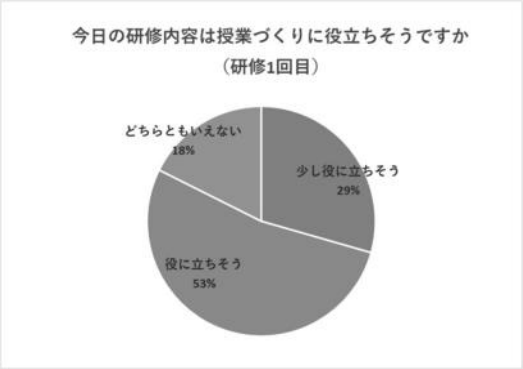
- 対面研修の高密度化には，いわゆる反転授業の手法が有効であること。特にワークショップ型研修の場合，参加者が共通の知識基盤を持っていることが，それぞれの考え方や独自の知識と経験の情報・意見交換が最大限に活かされる前提となる。反転させる手段として，書籍と動画配信の方法は，ともに有効であったが，その量と内容は，研修のエッセンスを多く含む箇所に絞ることが大切である。
- 対話性と主体性を必要とする研修では，参加教員自身の深い理解や動機付けにつながることが示唆された。その際，研修テーマに対する問題意識を喚起することでより効果が高められると考えられる。
- 教員の職能として肌で感じている児童生徒の汎用的能力に対し，共通の指標で児童生徒をアセスメントし，実感値との共通点と相違点について注目することは指導の手立てを深く考える一助になる。
- 研修自体に含まれる汎用性のある要素をキーワードとして取り出し，各研修に位置づけることで，研修の位置づけが明確になる上，研修主催側にとっても研修のバランスを把握する上で有用と思われる。

以上の成果を踏まえると，今後の課題は以下の 3 点に集約される。

- 教師が児童生徒の主体性や将来に生きる指導を意識化できるプログラムの必要性
- 体系的な研修のプログラムの可能性と必要性
- 教員研修自体の ICT 化による高度化の必要性

大衡小学校における研修１回目

- **実施日**：2016 年 11 月 9 日　14：30～16：30
- **実施会場**：大衡村立大衡小学校
- **参加者**：株式会社内田洋行　平野智紀，嶋田幸子，松岡祐樹，前田勇一
  宮城教育大学　安藤明伸，松本仁一，中澤寛子
- **実施の趣旨・目的**：
  ① 全国学力・学習状況調査を多面的に見て分析する
  ② 全国学力・学習状況調査結果から大衡小学校の特徴を理解し今後の授業や活動への活かし方を学内で共有
- **実施のスケジュール**：
  14：30-14：35　研修の趣旨説明
  14：35-15：00　話題提供（講義）
  15：00-15：45　帳票分析①
  15：45-16：20　帳票分析②
  16：20-16：30　まとめ
- **当日の配布物**：
  - ①大衡小「全国学力・学習状況調査」結果（国語 AB,算数 AB）
  - ②「全国学力・学習状況調査」問題（国語 AB,算数 AB）
  - ③ワークシート
  - ④提示資料
  - ⑤研修会アンケート
- **実施アンケート総合評価**：



総合的な教師力向上のための調査研究事業　第１日目研修

「全国学力・学習状況調査」調査結果分析ワークショップ　開催要項

1.　日時/会場

日時:　2016 年 11 月 9 日（水）14:30～16:30

会場:　大衡村立大衡小学校

宮城県黒川郡大衡村大衡字平林 13　電話番号:022-345-2424

2.　研修概要

「全国学力・学習状況調査」開始され 10 年が経過します。学力調査をやりっぱなしにせず、結果を「読む」こと、結果を「活かす」ことがますます重要になってきています。

本研修では結果データに基づいて、「子どもたちの学力をあげるにはどうしたら良いか」「授業を変えるにはどうしたら良いか」「どのような資質を伸ばして言ったら良いか」を考える手法を、分析ワークショップを通して習得していただく教員研修コースです。

学校自身で結果データを解釈し、現状の特徴や課題を見つけられるように進めていきます。

3.　ワークショップ目的・目標

① 全国学力・学習状況調査を多面的に見て、分析をする

② 全国学力・学習状況調査結果から大衡小学校の特徴を理解し、今後の授業や活動にどう活かしていったら良いかを学校内で共有する。

4.　環境/準備物

項番	分類	項目	数量	担当
①	環境	プロジェクタ	1 セット	学校
②	環境	マイク	1 セット	学校
③	機器/器具	ホワイトボード＆マーカー	10 セット	内田洋行
④	資料	レクチャー資料	30 部	内田洋行
⑤	資料	A3 版ワークシート	30 部	内田洋行
⑥	資料	国語（調査問題,②設問別帳票 A/B,③類型別帳票 A/B）	各 30 部	内田洋行
⑦	資料	算数（調査問題,②設問別帳票 A/B,③類型別帳票 A/B）	各 30 部	内田洋行
⑧	資料	質問紙（⑤質問紙帳票）	30 部	内田洋行
⑨	機器/器具	島番号札	1 セット	内田洋行

5.　事前準備/学習

事前に受講者を以下 3 つのチームに分けてください。　①国語チーム　②算数チーム　③質問紙チーム

6.　タイムテーブル

■第 1 日目（14:30～16:30）　担当：内田洋行教育総合研究所主任研究員　平野智紀

No.	時間	研修形態	項目	担当	内容
1	14:30（5 分）	説明	オープニング 研修の趣旨説明		
2	14:35（25 分）	講義	話題提供	ファシリテータ	
3	15:00（45 分）	ワーク	帳票分析①	ループ	3 種類の帳票をチームに分かれて分析（ジグソースタイル） （設問別調査結果、質問紙回答結果集計別に担当を決める）
4	15:45(35 分)	ワーク	帳票分析②	グループ	チームを組み替えて分析からわかったことを共有・統合 ・比較基準を決め比較する ・「5 ポイント以上の差」があるところを抽出し、その理由を検討する ・結果から「言えること」を考える
5	16:20（10 分）	まとめ	全体共有	ファシリテータ	各グループで議論したことを共有

以上

宮城教育大学「総合的な教師力の育成のための調査研究事業」

大衡小学校
学力調査分析研修

2016年11月9日
内田洋行教育総合研究所

タイムテーブル

* 14:00-14:30　趣旨説明・話題提供
* 14:30-15:15　グループワーク①
  * 帳票をチームに分かれて分析
* 15:15-15:50　グループワーク②
  * チームを組み替えて、分析からわかったことを共有・統合
  * チームごとにホワイトボードにまとめる
* 15:50-16:00　全体共有・まとめ

1

本日目指したいゴール

* さらに言えば
  * 大衡小の児童が伸ばすべき資質・能力について、全国学テの結果を複数組み合わせて考えることができる
* もっと言うと
  * 大衡小の児童が伸ばすべき資質・能力について、全国学テの結果をもとに考えることができる
* ここまでは
  * 大衡小の児童が伸ばすべき資質・能力について考えることができる

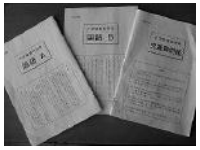
2

話題提供

全国学力・学習状況調査と新しい“資質・能力”

3

全国学力・学習状況調査とは



- 文部科学省が2007年(平成19年)より，日本全国の**小学校第6学年**と**中学校第3学年**を対象として行っている学力や学習状況の調査
- **A問題**（主として「知識」に関する問題）と**B問題**（主として「活用」に関する問題）そして**質問紙**（アンケート）からなる

調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、**教育施策の成果と課題を検証**し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する**継続的な検証改善サイクル**を確立する。
- **学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。**

4

※全国学力・学習状況調査の概要
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/1344101.htm

学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

※次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ　補足資料(1)（平成28年8月26日）
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/09/09/1377021_4_1.pdf

育成を目指す資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

**何を理解しているか
何ができるか**
知識・技能

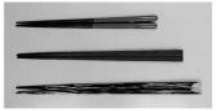
理解していること・できることをどう使うか
思考力・判断力・表現力等

※次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ　補足資料(1)（平成28年8月26日）
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/09/09/1377021_4_1.pdf

記述式設問の例

算数Ｂ５（３） 事象の観察と論理的な考察（日本の伝統文化）

使いやすいはしの長さのめやすは，「一あた半」と言われています。
一あたは，親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。
一あた半は，一あたを 1.5 倍した長さです。



使いやすいはしの長さのめやす

（３）なつきさんは妹のはしを買いに行こうと思いました。
なつきさんは一あたの長さについてさらに調べ，下のことがわかりました。

一あたは，身長の約 10 %の長さです。

妹の身長は 140 cm です。
妹の身長と，上の使いやすいはしの長さのめやすをもとに，一あた半の長さを求めると，はしの長さは約何 cm になりますか。求め方を言葉や式を使って書きましょう。また，答えも書きましょう。

【求め方の手順】
① 妹の身長から一あたの長さを求める
② 妹の一あたの長さから妹の箸の長さを求める
③ 答えを書く

7

※平成26年度全国学力・学習状況調査報告書　小学校算数B（国立教育政策研究所）より一部改変

解答類型による評価

	◎正答	△無視	×誤答	その他誤答
正答の条件① 妹の身長から１あたの長さを求める式を書いている	• 140×0.1など	• 記述なし • 無視表現とされる記述など	• 140÷0.1 • 140＋0.1 • 140－0.1 • 140×10 • 140＋10 • 140－10	• 左記以外
正答の条件② 妹の１あたの長さから妹の箸の長さを求める式を書いている	• 14×1.5など	• 記述なし • 無視表現とされる記述など	• 14＋1.5 • 14－1.5 • 14÷1.5 • 14＋0.5 • 14－0.5 • 14÷0.5	• 左記以外
正答の条件③ 答えを書いている	• 21と解答している		• 21以外を解答している • 記述なし	

設問ごとにある正答の条件（ルーブリック）をもとに、正解・不正解だけでなく、誤り方の種類を含めて最大10個に分類したものが「**解答類型**」

解答類型による評価

- 正答率：33.3%（全国・国公私立）

類型１	類型２	類型３	類型４	類型５
32.8%	0.5%	0.6%	2.3%	3.1%
類型６	**類型７**	**類型８**	**類型９**	**類型０**
1.7%	28.8%	5.2%	11.8%	13.0%

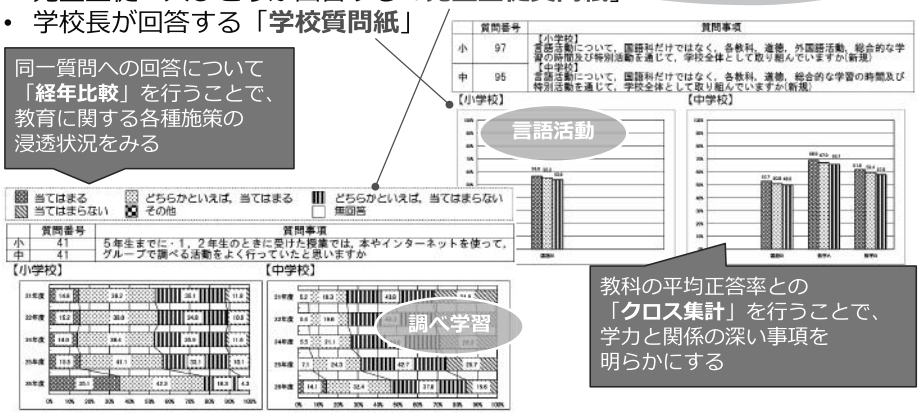
類型１：①◎－②◎－③◎【正答】
類型２：①△－②◎－③◎【準正答】
類型３：①◎－②△－③◎
類型４：①②（類型１～３以外の解答）－③◎
類型５：①◎△－②◎－③×
類型６：①？－②×－③×
類型７：①◎－②△－③×
類型８：①×－②？－③×
類型９：その他
類型０：無解答

課題１：類型０（無解答）が１割以上
→そもそも解く前にあきらめてしまっている児童が一定数いる（「あた」ってなんだ？）
課題２：類型７（正答の条件①のみ書けている）が全体の約３割
→手順②で「一あた半」と「1.5倍」をつなげて考えることができない

児童生徒質問紙・学校質問紙

学習状況を知るためのアンケート
- 児童生徒一人ひとりが回答する「**児童生徒質問紙**」
- 学校長が回答する「**学校質問紙**」

同一質問への回答について「**経年比較**」を行うことで、教育に関する各種施策の浸透状況をみる



教科の平均正答率との「**クロス集計**」を行うことで、学力と関係の深い事項を明らかにする

※平成26年度全国学力・学習状況調査報告書　質問紙調査（国立教育政策研究所）より

調査結果を“協働的に”みる

ワークショップ

ウォーミングアップ

ワークシート（1）

あなたは、大衡小の児童が伸ばすべき
資質・能力とはどんなものだと思いますか？
その理由・根拠とともに具体的にお書きください。

あなたの考えをワークシート（1）の欄に書いてみてください
→お近くの方と共有してみましょう

12

本日みなさんで考えたい課題

大衡小の児童が伸ばすべき
資質・能力とは？

大衡小の平成28年度の調査結果をもとに、
分析作業を実際にやってみたいと思います

13

ワークショップの前に 大衡小の結果概要

●平成28年度　小学校調査

	国語A	国語B	算数A	算数B
大衡小	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城県	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
全国	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
全国との差分	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

これだけ見ると、国語Bは健闘、
国語A・算数ABはやや課題、というように見えるが…

14

調査結果を多面的に見る

- 「調査結果概況」
- 「設問別調査結果」
- 「児童生徒質問紙回答結果集計」
- 「学校質問紙回答結果集計」
- 「クロス集計（児童生徒質問紙×教科）」
- 「結果チャート」

教科の平均正答率だけでなく，公表されている帳票に記載されている集計値一つひとつをしっかりと吟味し、解釈することが重要

15